

養護教諭教職課程 履修カルテ①<教職関連専門科目の履修状況と評価>

		学生 番号	氏名								
1. 教職科目の履修の状況と評価											
免許状の種類 基礎資格			養護教諭1種免許状 学士の学位								
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本学開設科目								
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位	授業科目	単位			履修年次 /開講期	授業 形態	あなたの成績の状況		
				必修	選必	選択			取得年度	評価	単位
第6条の6に定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法	2			1 前	講義			
	体育	2	身体運動と健康の科学	2			1 前	講義			
			健康・スポーツと社会				1 後	講義			
			スポーツ1	1			1 前	演習			
			スポーツ2				1 後	演習			
			スポーツ3				1 前	演習			
			スポーツ4				1 後	演習			
	外国語コミュニケーション	2	English Reading 1			1 前	演習				
			English Reading 2			1 後	演習				
			English Reading 3			2 前	演習				
			English Reading 4			2 後	演習				
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	数理・データサイエンス基礎	1			1 後	講義			
			情報リテラシー	1			1 前	講義			
	「教育職員免許法施行規則第6条の6に定める科目」単位計		8	本学開設科目 単位計		8	8	0	修得単位数		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育学概論	2			1 後	講義			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2			1 前	講義			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		学校制度論	2			3 前	講義			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学(教育・学校心理学)	2			1 前	講義			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		発達心理学			2	2 前	講義			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		特別ニーズ教育総論	2			2 前	講義			
			教育課程論	2			2 前	講義			
生の道等生徒に指導する等の教育内容に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳の指導法	2			2 後	講義			
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		総合的な学習の時間の指導法	1			3 後	講義			
			特別活動の指導法	2			3 前	講義			
			教育方法論	2			3 前	講義			
			生徒指導の理論及び方法	生徒指導論	2			3 前	講義		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談	2			2 前	講義					
実践教育に育科関連	養護実習	5	養護実習指導	1			3 通	実習			
	学校体験活動	2	養護実習	4			3 後	実習			
	教職実践演習		2			4 後	演習				
大学が独自に設定する科目※		7	心理学概論	2			1 前	講義			
			ボランティア体験Ⅰ	1			1 集中	実習			
			ボランティア体験Ⅱ			1	2 集中	実習			
			食育論			2	4 前	講義			
「教育の基礎的理解に関する科目」等 単位計		28	本学開設科目 単位計		33	0	5	修得単位数			
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)	4	衛生学(予防医学を含む。)	2			2 前	講義			
	学校保健	2	公衆衛生学	2			3 後	講義			
			学校保健	2			1 前	講義			
	養護概説	2	保健教育論	2			3 前	講義			
			養護学概論	2			2 前	講義			
			養護活動論Ⅰ	2			2 後	講義			
	健康相談活動の理論及び方法	2			2	3 後	講義				
	栄養学(食品学を含む。)	2	健康相談活動	2			3 後	講義			
	解剖学及び生理学	2	栄養学(食品学を含む)	2			1 後	講義			
			人体の構造と機能1(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)	2			1 前	講義			
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	2	人体の構造と機能2	2			1 後	講義			
			微生物学	2			2 前	講義			
			免疫学	2			2 後	講義			
	精神保健	2	薬理概論			2	3 前	講義			
			精神保健	2			2 後	講義			
	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	10	小児精神医学			2	3 後	講義			
			看護学	2			1 後	講義			
			看護学演習	1			2 後	演習			
看護学臨床実習			1			3 通	実習				
学校救急処置演習			1			3 前	演習				
小児保健			2			2 前	講義				
小児疾病論1(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)			2			2 後	講義				
小児疾病論2			2			3 前	講義				
「養護に関する科目」 単位計		28	本学開設科目 単位計		37	0	6	修得単位数			

※「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を越えて履修した「養護に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」と併せて7単位以上を修得すること

養護教諭教職課程 履修カルテ①<教職関連専門科目の履修状況と評価>(つづき)

学生 番号		氏名	
----------	--	----	--

2. 教職に関するボランティア経験の記録

年月日～年月日	日数	ボランティアの内容	ボランティアにおける自己の学び

3. 養護実習に関する経験の記録

実習校名	学校	期間	年 月 日()～ 年 月 日()(日間)
指導者	学校長	教育実習担当	学級担任 養護教諭

※養護実習中の記録や指導案・教材などは別途ファイルにきちんと綴じておくようにしてください。実習後の自己評価やふりかえり・報告などもポートフォリオとして整理しておくようにしましょう。

4. めざす養護教諭像

あなたがめざす養護教諭像について考え、現時点での自己評価や目標、今後の課題を具体的に書きましょう。

1年次	2年次
3年次	4年次(9月)

6. 教職実践演習を終えて

教職実践演習を終えて、これまでの4年間で得た学びや今後の抱負について書きましょう。

--

養護教諭教職課程 履修カルテ②<資質能力の評価>

学生番号		氏 名	
------	--	-----	--

養護教諭に必要な資質能力に関する評価

養護教諭に必要な資質能力について現時点での自己評価をしましょう。該当年次に履修・体験できていないこともあります。下記の通り記入して、空欄にはしないよう注意してください。評価は、以下の通り4段階でおこないます。なお、学習や経験を重ねることで前年度につけた評価を下げたいと感じた場合は、修正して構いませんが、その場合は二重線で消すとともに、「いつ修正したか」がわかるように修正すること。 1「学習・経験していない」 2「大いに不足している」 3「やや不足している」 4「できている」

	領域	資質能力	目 標	1年次 3月	2年次 3月	3年次 3月	4年次 9月	4年次 1月
1	確かな指導力	保健管理・健康相談を行う力	学校保健安全法を理解した上で、保健管理を行うことができる。					
2			学校保健安全法による健康相談の位置付けを理解し、実施することができる。					
3		保健教育等を行う力	学習指導要領を理解した上で、保健教育の授業づくりをすることができる。					
4			児童生徒の実態をとらえ、健康課題を明らかにして保健教育に役立てることができる。					
5			教材研究を意欲的にを行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保健教育に生かすことができる。					
6			新たな教育課題やカリキュラム・マネジメントについて基礎的な知識を身に付けている。					
7		生徒指導・教育相談・児童生徒理解の力	ICT活用について基礎的な知識・技能を身に付けている					
8			生徒指導・教育相談の基礎的な知識を身に付け、児童生徒との信頼関係を築くことの重要性を理解している。					
9			適切な児童生徒理解に基づいて、望ましい集団づくりを行うための基礎的な知識を身に付けている。					
10			安全・安心な教育環境を確保するための基礎的な知識を身に付けている。					
11		保健室経営の力	保健室の機能を理解した上で、保健室経営の方針の立案や保健室環境の整備等を積極的に行うことができる。					
12		教育課題を解決しようとする力	地域の実態や学校の教育課題を理解し、課題解決に向けて取り組む意欲がある。					
13	関係・力人が関る	コミュニケーション力	様々な人と協力・連携する中で、多様な考え方を受け入れつつ自分の考えを伝えたり、良好な人間関係を築いたりすることができる。					
14			組織の中での役割を理解したり、互いの仕事や健康について相談したりすることができる。					
15	教育に対する揺るぎない情熱	教職への思い	教育への夢と希望を持ち、児童生徒の成長のために教育に携わる意欲がある。					
16			教育的愛情を持って、本気で児童生徒と関わることができ、教員としての喜びや意義を見いだしている。					
17			児童生徒一人一人の良さを認めて、児童生徒のやる気を引き出すことができる。					
18		社会人としての自覚	社会人としての自覚を持って自己を律することができ、法令等を遵守している。					
19			チームの一員として役割を自覚し、協働して課題解決に取り組むことができる。					
20		向上心	広い教養を備え、人間的魅力を高めようとする意欲がある。					
21			多様な経験を積む中で、絶えず自分の取組を振り返り、次の課題解決に生かすことができる。					